

協同総合研究所

6月30日（日）

総会を迎えるにあたって

走りながら考えた一年

杉本 時哉（協同総合研究所・理事長）

昨年の総会で、協同総合研究所創立以来の黒川理事長が退任された後を、思いがけず継ぐことになって一年が過ぎました。当時私は、全国労働金庫協会相談役の任期をなお一年残しており、理事長の柄でもない固辞したもの、結局ショートリリーフで、余り気張らずにという条件でお引受けしたわけでしたが、結構忙しく走り続け、考え続けた一年だったように思います。

黒川前理事長から申し送られた事務局会議の定例化も、坂林新専務はじめ事務局全員の努力で定着し、情報の共有化が進んだように思うのですがどうでしょうか？ それにしても、人間生活のあらゆる分野に関わっている協同総研には、限られた力を超えて様々な今日の時代の要請が押し寄せて来ます。そうした中で主体的に課題を整理し取り組もうとするのは容易ではありません。一年の活動を会員の皆さんがどう評価されて来たか。それが問われる総会を迎える訳です。

一年間の総合研究所としての活動報告や、続く新しい年度に向けての事業計画は、総会への提出議案に譲ります。私自身はじっと観察する期間、自分の役目は何かを自覚するための一年と心得て来たつもりでしたが、現実はどうもそんなのんびりした進行を許してくれなかったようです。ともかく走りながら考え、考えながら走り続けた一年だった。振り返ってそんな印象を強くしています。

この間、若くかつ意欲的・行動的な事務局に支えられ、引き回されながら幸い私自身では大きな

間違いもなく勤めることが出来たことにホッとしています。会員の皆さんからの率直な評価をお願いしますと思います。私自身は阪神大震災の後の建設労協結成大会、愛知の高齢者協同組合結成、北海道協同集会、三重の50年誌出版祝賀会等に参加し、よい仕事調査の内山先生にも随行し、東北協同集会の実行委員会に出席するなど、私なりに努めて来ました。早くから関心は持ちながらも、労協の実践の場に直接触れることが少なかっただけに、大変めまぐるしく勉強させられた一年でした。

めまぐるしいと言えば、政治、経済、社会のすべての分野で、この一年は古い枠組みの綻びが人々の目にはっきりし始めた一年でもありました。それは人々の暮らしに厳しい深刻な影を落としながら、同時に新しい協同への息吹が噴き出した一年でもありました。

この5月末、私は労働金庫での任期を終え、協同総研に以前よりも専念出来る条件が出来ました。走りながら考え、考えながら走るパターンは急激に変化を遂げつつある今の時代では避けられないことではと思いますが、新しい一年には、より長期的な展望と計画性を持った模索もしてみたい。また、協同総研の特徴を生かして、会員がより広く深く多面的に参加でき、その思いを形にすることが出来るようにしたいものだと考えているところです。

会員の皆さんの智恵と協同、共感のいっそうの結集をお願いする次第です。